

第 4 問

【解答】

問 1

仕 掛 品		(単位：円)	
6/1 月初有高	(144,000)	6/30 製品	(4,488,000)
30 直接材料費	(2,110,000)	〃 月末有高	(144,500)
〃 直接労務費	(1,397,500)		
〃 製造間接費	(981,000)		
	(4,632,500)		(4,632,500)

月次損益計算書

(単位：円)

売上高		9,320,000
売上原価		
月初製品有高	560,000	
当月製品製造原価	(4,488,000)	
合計	(5,048,000)	
月末製品有高	(2,130,000)	
差引	(2,918,000)	
原価差異	(139,000)	(3,057,000)
売上総利益		(6,263,000)
販売費および一般管理費		1,870,000
営業利益		(4,393,000)

問 2

予算差異＝	40,000 円	(借方差異・貸方差異)
		いずれかを○で囲むこと
操業度差異＝	99,000 円	(借方差異・貸方差異)
		いずれかを○で囲むこと

【解説】

問 1

(1) 仕掛品勘定の記入について

①製造間接費予定配賦率の計算

製造間接費を予定配賦しているため、製造間接費予定配賦率を算定する必要がある。

$$\text{製造間接費予定配賦率} : \frac{12,960,000\text{円}}{14,400\text{時間}} = 900\text{円/時}$$

②月初有高の金額の計算

前月(5月)に製造を開始し、当月(6月)も製造している#12の製造原価のうち、前月分の原価が月初有高となる。

$$50,000\text{円} + 40,000\text{円} + \frac{60\text{時間} \times 900\text{円/時}}{\text{製造間接費予定配賦額}} = 144,000\text{円}$$

③直接材料費の金額の計算

#12(当月分)、13、14、15 および補修指図書#13-2の直接材料費の合計額を計算する。

$$300,000\text{円} + 820,000\text{円} + 840,000\text{円} + 80,000\text{円} + 70,000\text{円} = 2,110,000\text{円}$$

④直接労務費の金額の計算

#12(当月分)、13、14、15 および補修指図書#13-2の直接労務費の合計額を計算する。

$$160,000\text{円} + 350,000\text{円} + 100,000\text{円} + 750,000\text{円} + 37,500\text{円} = 1,397,500\text{円}$$

⑤製造間接費の金額の計算

#12(当月分)、13、14、15 および補修指図書#13-2の製造間接費予定配賦額の合計額を計算する。

$$(100\text{時間} + 280\text{時間} + 80\text{時間} + 600\text{時間} + 30\text{時間}) \times 900\text{円/時} = 981,000\text{円}$$

⑥製品および月末有高の金額の計算

当月中に完成した指図書(#12、13、14)と補修指図書#13-2の製造原価の合計額が「製品」の金額となり、当月末において仕掛中の指図書#15の製造原価が「月末有高」の金額となる。

「製品」の金額

$$\#12 : 50,000\text{円} + 300,000\text{円} + 40,000\text{円} + 160,000\text{円} + (60\text{時間} + 100\text{時間}) \times 900\text{円/時} = 694,000\text{円}$$

$$\#13 : 820,000\text{円} + 350,000\text{円} + 280\text{時間} \times 900\text{円/時} = 1,422,000\text{円}$$

$$\#13-2 : 70,000\text{円} + 100,000\text{円} + 80\text{時間} \times 900\text{円/時} = 242,000\text{円}$$

$$\#14 : 840,000\text{円} + 750,000\text{円} + 600\text{時間} \times 900\text{円/時} = 2,130,000\text{円}$$

$$\text{合 計} \quad \underline{\underline{4,488,000\text{円}}}$$

「月末有高」の金額

$$\#15 : 80,000 \text{ 円} + 37,500 \text{ 円} + 30 \text{ 時間} \times 900 \text{ 円/時} = 144,500 \text{ 円}$$

(2) 月次損益計算書の作成について

① 当月製品製造原価の金額

仕掛品勘定の「製品」の金額が、当月製品製造原価の金額である。

② 月末製品有高の金額

当月中に完成し、在庫となっている #14 の製造原価 ((1)⑤参照) が月末製品有高の金額である。

③ 原価差異の計算

本問の場合、製造間接費を予定配賦しているため、製造間接費配賦差異が算定される。

$$\begin{aligned} \text{製造間接費配賦差異} &= \text{製造間接費予定配賦額} - \text{製造間接費実際発生額} \\ &= \frac{(100 \text{ 時間} + 280 \text{ 時間} + 80 \text{ 時間} + 600 \text{ 時間} + 30 \text{ 時間}) \times 900 \text{ 円/時} - 1,120,000 \text{ 円}}{\text{当月の直接作業時間合計}} \\ &= -139,000 \text{ 円 (借方差異)} \end{aligned}$$

借方差異であるため、差引額 (2,918,000 円) に加算して、売上原価 (3,057,000 円) を算定する。

④ 売上総利益の計算

売上高から売上原価を差し引いて算定する。

⑤ 営業利益の計算

売上総利益から販売費および一般管理費を差し引いて算定する。

新版日商簿記テキスト工業簿記 テキスト pp.70～90 参照

新版日商簿記テキスト工業簿記 テキスト pp.174～187 参照

問 2

製造間接費配賦差異は、その発生原因との関係から、次のように予算差異と操業度差異に分析できる。

予算差異＝実際操業度における予算額－実際発生額

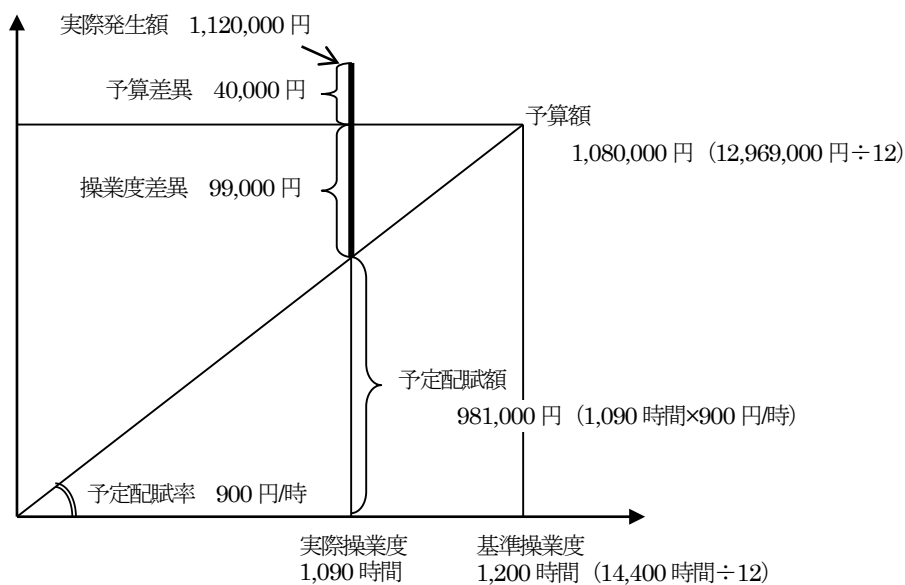
1,080,000 円¹⁾－1,120,000 円＝－40,000 円（借方差異）

1) 12,960,000 円÷12 → 月間の予算額の算定

操業度差異＝製造間接費予定配賦額－実際操業度における予算額

981,000 円（(1)③参照）－1,080,000 円＝－99,000 円（借方差異）

なお、固定予算による差異分析では、次のような図を描き、差異を算定すると理解しやすい。



新版日商簿記テキスト工業簿記 テキスト pp.86～87 参照

第 5 問

【解答】

問 1	21,460,000 円	
問 2	810,400 円	(借方差異)・貸方差異) いずれかを○で囲むこと
問 3	345,200 円	(借方差異)・貸方差異) いずれかを○で囲むこと
問 4	297,200 円	(借方差異)・貸方差異) いずれかを○で囲むこと
問 5	66,000 円	(借方差異)・貸方差異) いずれかを○で囲むこと
問 6	42,000 円	(借方差異)・貸方差異) いずれかを○で囲むこと

【解説】

問 1

完成品標準原価は、製品 1 個当たりの標準原価に当月生産量を乗じて算定する。

完成品標準原価：3,700 個×5,800 円/個=21,460,000 円

問 2

原価差異の総額は、完成品標準原価と実際製造費用の差額として算定する。

原価差異の総額：21,460,000 円－(12,185,200 円+4,211,200 円+5,874,000 円)＝－810,400 円 (借方差異)

問 3

直接材料費差異は、標準直接材料費と実際直接材料費の差額として算定する。

直接材料費差異：3,700 個×3,200 円/個－12,185,200 円＝－345,200 円 (借方差異)

問 4

価格差異は、標準単価と実際単価との差額に実際消費量を乗じて算定する。

価格差異：(800 円/kg－820 円/kg¹⁾) × 14,860kg＝－297,200 円 (借方差異)

1) 12,185,200 円÷14,860kg

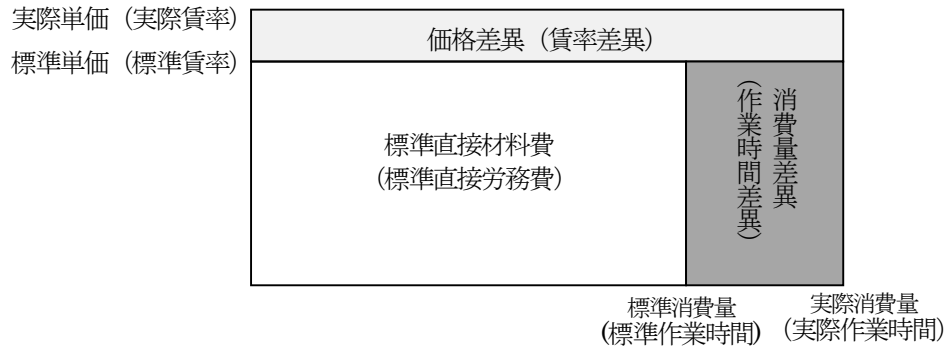
問 5

作業時間差異は、標準直接作業時間と実際直接作業時間との差額に標準賃率を乗じて算定する。

作業時間差異：(1,850 時間²⁾－1,880 時間) × 2,200 円/時間＝－66,000 円 (借方差異)

2) 3,700 個×0.5 時間/個

なお、直接費の差異分析における価格差異（賃率差異）と消費量差異（作業時間差異）の関係を図に示すと、次のとおりである。



問 6

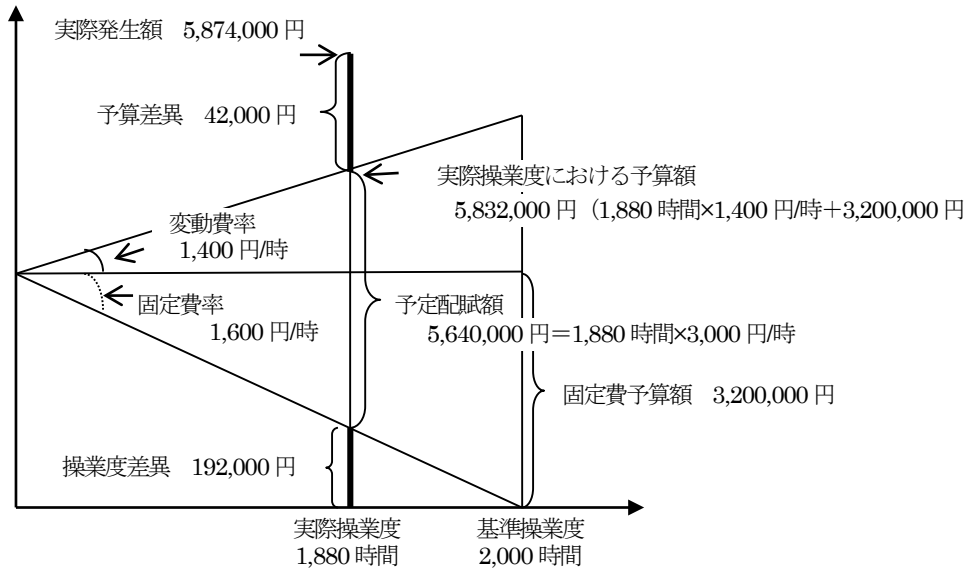
製造間接費予算差異は、実際操業度における予算額と製造間接費実際発生額の差額として算定する。

製造間接費予算差異：(1,880 時間×1,400 円/時間³⁾ + 3,200,000 円⁴⁾ - 5,874,000 円 = -42,000 円（借方差異）

3) 33,600,000 円 ÷ 24,000 時間 → 変動費率の算定

4) 38,400,000 円 ÷ 12 → 月間固定製造間接費予算の算定

なお、変動予算による差異分析では、次のような図を描き、差異を算定すると理解しやすい。



新版日商簿記テキスト工業簿記 テキスト pp.86~87 参照